

学校教育目標、学校経営理念、学校経営方針

中期計画<令和2年度～令和4年度> (知、徳、体、横断)

短期計画【知】 (1年目、2年目、3年目)

短期計画【徳】		目標達成に向けた取組		中間検証	評価
目標<単年度の到達目標>		項目<振計>【担当】	◆取組の評価指標	<4~8月の取組を検証>	年度末検証<到達指標の達成状況を検証>
1年目 【令和2年度】	(1)学校評価アンケート⇒「学校が楽しい」95%以上、「学級が楽しい」95%以上 (2)学校生活アンケート⇒「周りの人から嫌なことをされた経験」20%以下(1・2学期平均) (3)学校評価アンケート⇒「5あ(挨拶・安全・後始末・集まり・遊び)ができて」肯定的評価70%以上 (4)学年目標冊数(低80冊、中60冊、高40冊)⇒80%以上(2/10時点)	規範意識や自尊感情など豊かな心を育む取組の充実 <I2(4)> 【道徳推進教師・人権教育主任・図書担当・徳の部会】 生徒指導上の諸課題への組織的な対応・支援の教科 <I2(6)> 【児童会担当・生徒指導担当】	①「考え、議論する」道徳授業の充実(展開の工夫) ②心の教育参観日におけるいじめに係る道徳及び人権教育の授業公開 ③「ほっとロングタイム」「Gどみつけ」「エンカウンター」の継続的な実施 ④「5あ(挨拶・安全・後始末・集まり・遊び)の徹底 ⑤読書の習慣化	①学年毎の教員及び授業の流し方の共有⇒90% ①小中教科部会における道徳授業の公開及び研究協議ができています。 ②指導案を基にした「いじめに係る授業実践」ができています。 ③「ほっとロングタイム」「Gどみつけ」の取組及び「エンカウンター」の紹介等を基にした各学級での取組ができています。 ④「5あ」の実践について学期毎に教職員の「へつろ」の機会を設定できています。 ⑤読書環境の整備(予約システム、市民図書館の利用等)、読書への興味付け(並行読書、ブックトーク等)ができています。	・「周りの人から嫌なことをされた経験がある」と回答した児童が26.1%と、昨年度に比べて増えており、目標値にも届いていない。いじめに係る授業実践を含め、コロナ感染症に係る人権侵害行為を視野に入れながら、周りの人達を大切にすることを意識する実践を進めていく。
2年目 【令和3年度】	(1)学校評価アンケート⇒「学校が楽しい」95%以上、「学級が楽しい」95%以上 (2)学校生活アンケート⇒「周りの人から嫌なことをされた経験」20%以下(1・2学期平均) (3)指定研究アンケート⇒「授業中に自分の思いや考えを安心して言える」強肯定的評価50%以上 (4)学校評価アンケート⇒「5あ(挨拶・安全・後始末・集まり・遊び)ができて」肯定的評価90%以上 (5)学年目標冊数(低80冊、中60冊、高40冊)⇒80%以上(2/10時点)	規範意識や自尊感情など豊かな心を育む取組の充実 <I2(4)> 【道徳推進教師・人権教育主任・図書担当・徳の部会】 生徒指導上の諸課題への組織的な対応・支援の強化 <I2(6)> 【児童会担当・生徒指導担当】	①「考え、議論する」道徳授業の充実(展開の工夫) ②心の教育参観日におけるいじめに係る道徳及び人権教育の授業公開 ③特別活動の充実 ④縦割り班活動、エンカウンター等の継続的な実施 ⑤「5あ(挨拶・安全・後始末・集まり・遊び)の徹底 ⑥読書の習慣化	①学年毎の教員及び授業の流し方の共有⇒90% ①小中教科部会における道徳授業の公開及び研究協議ができています。 ②指導案を基にした「いじめに係る授業実践」ができています。 ③学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事において、児童主体の取組ができています。 ④縦割り班活動の取組及びエンカウンター等の紹介等を基にした各学級・学年での取組ができています。 ⑤「5あ」の実践について学期毎に教職員の「へつろ」の機会を設定できています。 ⑥読書環境の整備(予約システム、市民図書館の利用等)、読書への興味付け(並行読書、ブックトーク等)ができています。	・「嫌なことをされた経験」の値が29.5%となっており、年々高くなってきている。研究事業に係る縦割り班活動等の人間関係づくりや日々の生徒指導をはじめ、人権教育参観日におけるいじめに係る公開授業や日々の道徳授業を通して、自分事として考え行動できる実践を積み重ねていく。
3年目 【令和4年度】	(1)学校評価アンケート⇒「学校が楽しい」95%以上、「学級が楽しい」95%以上 (2)学校生活アンケート⇒「周りの人から嫌なことをされた経験」20%以下(1・2学期平均) (3)指定研究アンケート⇒「授業中に自分の思いや考えを安心して言える」強肯定的評価50%以上 (4)学校評価アンケート⇒「5あ(挨拶・安全・後始末・集まり・遊び)ができて」肯定的評価90%以上 (5)学年目標冊数(低80冊、中60冊、高40冊)⇒80%以上(2/10時点)	規範意識や自尊感情など豊かな心を育む取組の充実 <I2(4)> 【道徳推進教師・人権教育主任・図書担当・徳の部会】 生徒指導上の諸課題への組織的な対応・支援の強化 <I2(6)> 【児童会担当・生徒指導担当】	①「考え、議論する」道徳授業の充実(展開の工夫) ②心の教育参観日におけるいじめに係る道徳及び人権教育の授業公開 ③特別活動の充実 ④縦割り班活動、エンカウンター等の継続的な実施 ⑤「5あ(挨拶・安全・後始末・集まり・遊び)の徹底 ⑥読書の習慣化	①学年毎の教員及び授業の流し方の共有⇒90% ①小中教科部会における道徳授業の研究協議ができています。 ②指導案を基にした「いじめに係る授業実践」ができています。 ③学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事において、児童主体の取組ができています。 ④縦割り班活動の取組及びエンカウンター等の紹介等を基にした各学級・学年での取組ができています。 ⑤「5あ」の実践について学期毎に教職員の「へつろ」の機会を設定できています。 ⑥読書環境の整備(予約システム、市民図書館の利用等)、読書への興味付け(並行読書、ブックトーク等)ができています。	

短期計画【体】		目標達成に向けた取組		中間検証	評価
目標<単年度の到達目標>		項目<振計>【担当】	◆取組の評価指標	<4~8月の取組を検証>	年度末検証<到達指標の達成状況を検証>
1年目 【令和2年度】	(1)全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果⇒5種目全国平均超 (2)体育・運動アンケート⇒「体育授業が楽しい」95%以上、「運動やスポーツが好き」90%以上、「20分休みは外で遊んでいる」95%以上 (3)いきいき生活カード⇒起床時刻(全年6:30)90%、就寝時刻(1・2年:9:00、3・4年:9:30、5・6年:9:30)	健康・体力の向上 <I2(7)> 【体育主任・養護教諭・栄養教諭・児童会担当・体の部会】	①幼児小中中で統一した「いきいき生活カード」の実施及び保護者への啓発による生活習慣の定着 ②食育・保健指導・健康教育の工夫・改善 ③年間計画に基づいた領域に偏りのない体育授業実践 ④体育科公開授業研究会の実施【再掲】 ⑤5分間プログラムの活用による運動能力の向上 ⑥朝マラソン・朝縄跳びの計画的な実施による体力づくりと仲間づくり ⑦20分休みの外遊びの習慣化	①幼児小中での実態を掲載した便りの発行ができています。 ②「いきいき生活カード」の事前事後指導(年4回)及び保健朝会(年2回)の実施 ③④年間計画に基づいた体育授業実施率⇒90% ⑤5分間プログラム実施率⇒80% ⑥朝マラソン・朝縄跳びが計画通り実施できている。 ⑦20分休みに外遊びを促している。	・基本的な生活習慣の定着に向けての取組、体育授業や運動の習慣化に係る取組についてのアンケート結果は概ね目標値に達しており、地道な取組が実を結んでいる。2学期は体育授業の充実を更に図っていく。
2年目 【令和3年度】	(1)全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果⇒5種目全国平均超 (2)体育・運動アンケート⇒「体育授業が楽しい」95%以上、「運動やスポーツが好き」90%以上、「長休みは外で遊んでいる」95%以上 (3)いきいき生活カード⇒起床時刻(全年6:30)90%、就寝時刻(1・2年:9:00、3・4年:9:30、5・6年:9:30)	健康・体力の向上 <I2(7)> 【体育主任・養護教諭・栄養教諭・児童会担当・体の部会】	①幼児小中中で統一した「いきいき生活カード」の実施及び保護者への啓発による生活習慣の定着 ②食育・保健指導・健康教育の工夫・改善 ③年間計画に基づいた領域に偏りのない体育授業実践 ④体育科授業研修の実施 ⑤5分間プログラムの活用による運動能力の向上 ⑥朝マラソン・朝縄跳びの計画的な実施による体力づくりと仲間づくり ⑦長休みの外遊びの習慣化	①幼児小中での実態を掲載した便りの発行ができています。 ②「いきいき生活カード」の事前事後指導(年4回)及び保健朝会(年2回)の実施 ③④年間計画に基づいた体育授業実施率⇒90% ⑤5分間プログラム実施率⇒80% ⑥朝マラソン・朝縄跳びが計画通り実施できている。 ⑦長休みに外遊びを促している。	・昨年度同様、これまでの地道な取組が実を結び、体に係るアンケート項目については、安定して目標値に近い値となっている。2学期には体育の研究授業を実施することとなり、授業についても研究を深めていく。
3年目 【令和4年度】	(1)全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果⇒5種目全国平均超 (2)体育・運動アンケート⇒「体育授業が楽しい」95%以上、「運動やスポーツが好き」90%以上、「長休みは外で遊んでいる」95%以上 (3)いきいき生活カード⇒起床時刻(全年6:30)90%、就寝時刻(1・2年:9:00、3・4年:9:30、5・6年:9:30)	健康・体力の向上 <I2(7)> 【体育主任・養護教諭・栄養教諭・児童会担当・体の部会】	①幼児小中中で統一した「いきいき生活カード」の実施及び保護者への啓発による生活習慣の定着 ②食育・保健指導・健康教育の工夫・改善 ③年間計画に基づいた領域に偏りのない体育授業実践 ④体育科公開授業研究会の実施 ⑤5分間プログラムの活用による運動能力の向上 ⑥朝マラソン・朝縄跳びの計画的な実施による体力づくりと仲間づくり ⑦長休みの外遊びの習慣化	①幼児小の実態を掲載した便りの発行ができています。 ②「いきいき生活カード」の事前事後指導(年4回)及び保健朝会(年2回)の実施 ③④年間計画に基づいた体育授業実施率⇒90% ⑤5分間プログラム実施率⇒80% ⑥朝マラソン・朝縄跳びが計画通り実施できている。 ⑦長休みに外遊びを促している。	

短期計画【横断】		目標達成に向けた取組		中間検証	評価
目標<単年度の到達目標>		項目<振計>【担当】	◆取組の評価指標	<4~8月の取組を検証>	年度末検証<到達指標の達成状況を検証>
1年目 【令和2年度】	(1)新たな不登校による年間30日以上欠席者⇒0人 (2)適時・的確ないじめの早期発見及び対応 (3)時間外勤務月45時間以内⇒70%以上 (4)実態に応じた実効性の高い学校安全計画及び危機管理マニュアルの策定 (5)安全教育プログラム等を活用した授業実践⇒年間5時間以上 (6)学校評価アンケート(教職員)⇒「保・幼・中との連携を図り、教育効果を高めている」90%以上 (7)学校評価アンケート(「わたり会」具同地区学校支援地域本部)⇒「課題を提示し地域と協力している」90%以上	不登校の未然防止と初期対応<横断1(1)> 障害の状態や教育的ニーズに応じた指導・支援の充実<II2(1)> 【教諭・不登校担当・特別支援教育コーディネーター】 業務の効率化・削減 <横断2(2)> 【管理職】 防災を中心とした安全教育・安全管理の充実 <VI3(2)> 【教諭・安全教育担当】 保幼小の円滑な連携・接続の推進 <VI1(2)> 【教諭・1年部】 地域全体で子どもを見守り育てる取組の推進 <IV2(1)> 【主幹教諭・児童会】	①校内支援委員会における情報共有を基にした効果的な指導・支援の検討 ②いじめ防止基本方針の確認及び徹底 ③効率的且つ効果的な会議や行事等の運営・見直し及び時間外勤務に係る啓発 ④防災・安全に係る計画やマニュアルの見直しを図るための先遣校視察及び校内研修の実施 ⑤安全教育プログラム等を活用した授業実践を充実させるための校内研修の実施 ⑥安全参観日の実施 ⑦保幼小連絡会による情報(児童の実態、10の姿等)の共有化 ⑧児童の安全確保や健全育成に係る情報共有を基にした取組の継続	①校内支援委員会の開催⇒年間計画に沿った毎月1回の実施及び適時・緊急的な実施 ②年度当初に「いじめ防止基本方針」の共通認識を図るとともに、いじめ事案の際には基本方針に則り対応できている。 ③「ちょこっと総括」等を活用した行事や会議等の見直しを図ることができている。 ④⑤計画等の見直しや授業実践が計画通り進んでいる。 ⑥⑦保幼小連携に係る取組が計画通り進んでいる。 ⑧「わたり会」学校支援地域本部(「安全教育実践委員会」兼ねる)の取組が計画通り進んでいる。	・新型コロナウイルスの影響で、保幼小や地域との連携及び安全教育に係る取組がほぼできていない状態ではあるが、今後の状況を鑑み、できる範囲で実践していく。 ・校内支援委員会や外部機関を交えたケースを随時設定し、不登校対応を含めた児童・家庭支援に取り組むことができた。成果はまだ一部の部分もあるが、地道に継続して取り組んでいく。 ・時間外勤務についての啓発にも取り組んでいるが、改善への道程は速い。
2年目 【令和3年度】	(1)新たな不登校による年間30日以上欠席者⇒0人 (2)適時・的確ないじめの早期発見及び対応 (3)時間外勤務45時間以内⇒70%以上 (4)安全教育プログラム等を活用した授業実践⇒年間5時間以上 (5)学校評価アンケート(教職員)⇒「保・幼・中との連携を図り、教育効果を高めている」80%以上 (6)学校評価アンケート(「わたり会」具同地区学校支援地域本部)⇒「課題を提示し地域と協力している」90%以上	不登校の未然防止と初期対応<横断1(1)> 障害の状態や教育的ニーズに応じた指導・支援の充実<II2(1)> 【教諭・不登校担当・特別支援教育コーディネーター】 業務の効率化・削減 <横断2(2)> 【管理職】 防災を中心とした安全教育・安全管理の充実 <VI3(2)> 【教諭・安全教育担当】 保幼小の円滑な連携・接続の推進 <VI1(2)> 【教諭・1年部】 地域全体で子どもを見守り育てる取組の推進 <IV2(1)> 【主幹教諭・児童会】	①校内支援委員会における情報共有を基にした効果的な指導・支援の検討 ②いじめ防止基本方針の確認及び徹底 ③効率的且つ効果的な会議や行事等の運営・見直し及び時間外勤務に係る啓発 ④安全教育参観日の実施 ⑤保幼小中の4部会(知、徳、体、環境、総合)及び教科部会での効果的な協議と実践 ⑥保幼小連絡会による情報(児童の実態、10の姿等)の共有化 ⑦児童の安全確保や健全育成に係る情報共有を基にした取組の継続	①校内支援委員会の開催⇒年間計画に沿った毎月1回の実施及び適時・緊急的な実施 ②年度当初に「いじめ防止基本方針」の共通認識を図るとともに、いじめ事案の際には基本方針に則り対応できている。 ③「ちょこっと総括」等を活用した行事や会議等の見直しを図ることができている。 ④時間外勤務を月45時間、年360時間以内にするこについて、機会あるごとに啓発している。 ⑤安全教育プログラム等を活用した授業実践が計画通り進んでいる。 ⑥保幼小連携に係る取組が計画通り進んでいる。 ⑦「わたり会」学校支援地域本部の取組が計画通り進んでいる。	・研究事業に係る外部機関を交えた校内支援委員会や保護者を交えた懇談等において、不登校児童の対応を検討・協議することではあったが、継続的に不登校傾向にある児童の改善には至っていない。 ・安全教育参観日を開催し、交通、生活、災害に係る安全教育の授業を公開することができた。 ・時間外勤務の削減については今後も機会あるごとに啓発していく。
3年目 【令和4年度】	(1)新たな不登校による年間30日以上欠席者⇒0人 (2)適時・的確ないじめの早期発見及び対応 (3)時間外勤務45時間以内⇒70%以上 (4)安全教育プログラム等を活用した授業実践⇒年間5時間以上 (5)学校評価アンケート(教職員)⇒「保・幼・中との連携を図り、教育効果を高めている」80%以上 (6)学校評価アンケート(「わたり会」具同地区学校支援地域本部)⇒「課題を提示し地域と協力している」90%以上	不登校の未然防止と初期対応<横断1(1)> 障害の状態や教育的ニーズに応じた指導・支援の充実<II2(1)> 【教諭・不登校担当・特別支援教育コーディネーター】 業務の効率化・削減 <横断2(2)> 【管理職】 防災を中心とした安全教育・安全管理の充実 <VI3(2)> 【教諭・安全教育担当】 保幼小の円滑な連携・接続の推進 <VI1(2)> 【教諭・1年部】 地域全体で子どもを見守り育てる取組の推進 <IV2(1)> 【主幹教諭・児童会】	①校内支援委員会における情報共有を基にした効果的な指導・支援の検討 ②いじめ防止基本方針の確認及び徹底 ③効率的且つ効果的な会議や行事等の運営・見直し及び時間外勤務に係る啓発 ④安全教育参観日の実施 ⑤小中の3部会(知、徳、体)及び教科部会での効果的な協議と実践 ⑥保幼小連絡会による情報(児童の実態、10の姿等)の共有化 ⑦児童の安全確保や健全育成に係る情報共有を基にした取組の継続 ⑧日々の欠席や健康状態等の把握をICT機器を使用している素早い全体把握	①校内支援委員会の開催⇒年間計画に沿った毎月1回の実施及び適時・緊急的な実施 ②年度当初に「いじめ防止基本方針」の共通認識を図るとともに、いじめ事案の際には基本方針に則り対応できている。 ③「ちょこっと総括」等を活用した行事や会議等の見直しを図ることができている。 ④時間外勤務を月45時間、年360時間以内にするこについて、機会あるごとに啓発している。(GW活用による在校時間の把握と管理) ⑤安全教育プログラム等を活用した授業実践が計画通り進んでいる。 ⑥保幼小連携に係る取組が計画通り進んでいる。 ⑦「わたり会」地域学校協働本部の取組が計画通り進んでいる。 ⑧クラスルームを活用した児童の健康状態や欠席状況を毎朝確認できている。	・新たな不登校はないものの、欠席が30日に近い児童や登校しぶりがちな児童がいるほか、昨年度30日以上欠席であった児童のほとんどが今年度も30日以上欠席となっており、今後も重点課題として関係機関や保護者との連携のもと、対応・取組を進めていく。 ○安全な学校運営に係って、新型コロナウイルス感染症への対応や防止対策については教職員の意識疎通を図りながら適時・的確に取り組むことができた。 ●時間外勤務削減についての意識化は徐々に進んでいる。